



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

1分間に17人(内12人が子ども)  
1日に2万5,000人  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています。



# 飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



親善大使の海外研修報告  
当機構の親善大使ナイトdeライトの皆さんに活動地カンボジアを訪問していただきました。P3-5に記事を掲載。

## 旅行にも便利な 刺繍小物2点セット

バングラデシュの地方に暮らす女性たちの自立支援を目的としたフェアトレード製品

### A ポーチ(クジャクの刺繍)

化粧品、パスポート、通帳入れなどに  
サイズ:巾15×高さ10×まち巾6cm  
2,000円(色はおまかせ)



### B ポシェット(魚の刺繍)

携帯電話、眼鏡ケースなどに  
サイズ:巾10×高さ15cm ストラップ120cm  
700円 ①くろ、②きなり、③あか

※ポシェットはご希望の色を番号で指定してください。指定がない場合はおまかせとさせていただきます。

AとB、各1個セットで税込2,700円を送料無料でお届け!

## 2016年地球家族カレンダーで先着100名様

にお送りした割引チケットをご利用いただけますので、お持ちの方は番号をお知らせください。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402  
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888  
メール: customer@kbwin-win.org  
Web: キングダムビジネスで検索。

## 2016世界食料デー大会テーマ決定!!

わたしから始める、世界が変わる

## 育てよう、希望の苗を

子どもたちが「生まれてよかった」と思える世界のために今、私たちから始めよう。今年も1食分募金を行います。ぜひご協力ください。次号「2016世界食料デー特集」で紹介します。



## 世界食料デーでFHバングラディッシュスタッフが現地報告

今年も9月末から全国各地で「世界食料デー大会」が開催されます。今回は現地報告者としてポリビア駐在の小西小百合に加え、FHバングラディッシュからスタッフのティムとアンドレア・ダンツ夫妻(米国人)が来日します。二人は2008年からFHバングラディッシュに赴任。現在、ティムは、国際飢餓対策機構(FH)/バングラディッシュのエグゼクティブ・ディレクターとして、アンドレアは、FHのアジア地域プログラムマネージャーとして、地域で最も弱い立場の人々の模範となるリーダーになるように地域の男女を訓練しています。



二人は、10月に関西と愛知の世界食料デー大会で現地報告を行う予定です。ぜひご参加ください。各地の大会日程は次号でお知らせします。

## ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!

現在までに  
41162口

## 今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月( )口 (1口1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月( )口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。毎月( )口 (1口500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: \_\_\_\_\_ 男・女

〒 \_\_\_\_\_

フリガナ 住所: \_\_\_\_\_

.....

(電話) \_\_\_\_\_

▼申込日: \_\_\_\_\_年 月 日▼NL 313号

# FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

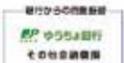
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155

東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E  
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F  
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F  
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037

沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンズ米202号  
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216

USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた  
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛  
関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協  
力を下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

## 「18,800」

18,800。さて、何の数字だと思いますか?単位は何でしょうか?円でしょうか?人でしょうか?答えは「日」です。18,800日。実はこの原稿を書いている時の私の生きた日の数なのです。自分の年齢に365を掛けて、直前の誕生日から、計算した日までの日数を足し、そこに生きた年数から今までの閏年の日数を加えると、あなたの生きた日数がわかります。私の場合は、18,800日だったということなのです。普通、年齢は「年」で数えますが、こうして「日」で数えると、自分が生きてきた歩みを実感することができます。すべてを思い出せませんが、あんな日もあった、こんな日もあったと、今までの人生の歩みを振り返ることもできます。ぜひ一度あなたの「日齢」を計算してみてください。

ここで改めて考えてみたいと思います。自分が重ねてきた1日1日ですが、その1日にどんな助けがあったらどうか。誰が自分を助けてくださり、犠牲を払って支えてくださったかを。お願いをしたわけではありませんが、そんなことを構わずに私のために祈り、犠牲を払って支えてくださった方々がいたかを。そして、今日生きることができたことを振り返ってみても、同じように誰かがどこ

日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

かで支えてくれたからなのだと改めて思うのです。自分で生きているなどという傲慢さを捨てることができたら、どれほど感謝が生まれてくるのかと反省させられました。

私もこのようにして1日1日支えられて生きてくることができて、18,800日を数えることができたならば、今度は私が誰かの「1日」のために、喜んで支え、犠牲を払う必要があるのだと思います。何年、何十年という年月を考えると、途方もないように思いますが、まずは「1日」、誰かのために何かをしようと思い、行動を始めることはできるはずだ。

1日に、飲み物一本分の「犠牲」。1ヶ月で約4,000円です。しかし、それによって明日生きられるかわからないアフリカの、アジアの、南米の、世界の1人の子どもの1日を支え、やがてその1日が重なり続けることによって、その子どもも「私は3650日生きることができた」とか「10,000日」の記念日を家族で祝う時が来ることを考えたいと思うのです。私もそうやって、1日1日支えられて18,800日を刻んできました。誰かの1日のために、私たちにできる何かがあるはずだ。



熊本地震緊急支援報告  
 現地派遣活動を終えて  
 東北事務所 伊東綾



被災地域の農家で田んぼの手伝いをするボランティアチーム



日本国際飢餓対策機構・親善大使

# ナイトdeライト

## カンボジア研修 参加レポート



昨年6組目の親善大使として就任していただいた4人組人気バンド「ナイトdeライト」の皆さんをJIFHの活動地の一つ、カンボジアにお連れし、貧困と闘う現地の人々の状況や支援活動の詳細を見ていただきました。

アンコールワットで有名なシェムリアップ市街より車で1時間半、美しい農村地帯を走り抜けたところにスパイルー地区があります。そのバンミア村、チャンピア村、トイチェイ村を訪問し、日本のチャイルドサポーターさんより教育支援を受けて学校で学ぶ子どもたちとの交流や、たくさんの村人が集い村の自立開発に向けて村の課題のあぶり出しやすきにある資源の確認など、熱心に意見を出し合うミーティングに参加しました。また皆が少額を出し合い低金利で貸し出す貯蓄グループのミーティングにも参加し、実際に小さなお店や養豚事業を始められた家庭も訪問させていただきました。それぞれの村が日本のチャイルドサポーターさんのご支援とFHカンボジアとの協力によって、どのように自立に向かっているかを見せていただきました。

村の子どもたちや村人との交流も感動的で行く先々で歓迎され、ナイトdeライトの演奏や歌声に感動と歓声が沸き起こっていました。

4日間という短い滞在ではありましたが、グループの皆さんの現地ゆえに見聞きできた事柄を通しての気付きや親善大使としての決意などを、メンバー全員がレポート(次頁)してくださいました。(啓発総主事 田村治郎)



2006年北海道札幌市で結成された希望を歌う4人組人気バンド。ヴォーカル:平野翔一、ギター:三橋恵之矩、ベース:長沢紘宣、ドラム:田中満矢の4人によって構成される。2012年1月に「終わらない夢」がコンサドーレ札幌公式テーマソングに採用され、同曲は「白い恋人」でおなじみの石屋製菓のテレビCMに起用される。2015年1月には、スガシカオ[hitori tour] 札幌公演のオープニングアクトを務める。2015年4月、フルアルバム「Familia」リリース。

## 東日本支援の経験を活かすボランティア

突然の激震に襲われた熊本と大分。本震当日と2日後に当機構スタッフ3名は、15日にはすでに支援活動を始めていた熊本ハーベストチャーチ(中村陽志牧師)に向かい、現場活動と支援センター運営のサポートを担うことになりました。私が到着した18日には、20名近くのボランティアが集まってきており、続々と届く物資の受け渡しと各地への配送、近隣家屋の片づけ、食事の炊き出しなどを担ってくれました。この時点で、熊本市内は電気は回復していたものの、水道・ガスは使用できない中でも、ボランティアさんたちは、一言の愚痴もこぼさず、お互いを気

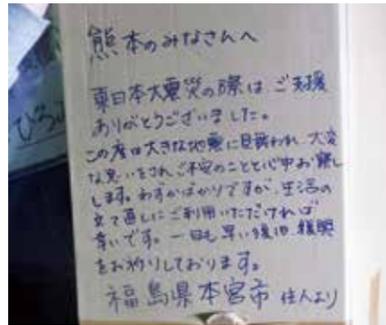
遣いながら、「少しでも熊本のために役立ちたい。」と、黙々と作業を続けました。

### 海外から支援チーム次々と

熊本に駆けつけてくださるボランティアさんは、東日本大震災で支援活動をした方も多く、その経験も活かされていました。九州はアジア地域から近く、韓国、香港、シンガポールからチームを組んで来てくれていますし、中には、自分の日本一周旅行の予定を変更してボランティア活動に充ててくれたイギリスやフランスの方もいました。日本人と外国人が一つになり、被害を受けた地域を作業する姿に、被災者も少しずつ笑顔を取り戻していきました。

### 外部団体の協力も力に

今回の熊本支援は、県外教会はもちろんのこと、外部団体もそれぞれの得意分野を生かして九キ災(九州キリスト災害支援センター)をサポートするという協力体制が出来上がりました。1つの団体が行うことには限界があっても、多くの団体が協力することで、働きが2倍にも3倍にも広がっていったことは、支援者と受益者の双方にとって、良き結果となりました。



福島から届いた支援物資の箱に激励文

「協力」は、九キ災内部に留まらず、益城町では、地元の住民自身や行政、外部支援者が復興を前進していくための『益城がんばるもん会議(通称:MGM)』が、週1回開かれており、益城ベーススタッフも出席し、『2日後にの〇〇のお手伝いが必要』(例:引っ越し作業人員、炊き出し、農業支援など)と要請があると、九キ災のボランティアを派遣しています。

熊本から離れると、地震の報道はほとんどされていません。実際には、避難所生活は続いていますし、大雨や余震による二次災害も懸念されています。

当機構は6月30日で現地でのサポートを、地元スタッフに引き継ぎ熊本を離れましたが、今後も形を変えて、熊本地震の支援を続けていきます。

熊本地震の活動は、九州キリスト災害支援センターのフェイスブックでご覧いただけます。  
<https://www.facebook.com/kumamotoshien/>



様々な国からのボランティアも集まりました



# ナイトdeライト

## 自分たちの人生に大きな気づきをもたらした活動地訪問となりました

カンボジア研修 参加レポート

みつはしえのく  
三橋恵之矩  
VDCの会議で感じた事

小さな一つの村の会議が国を根底から改善するのだ



たなかみちや  
田中満矢  
「あなたの夢はなんですか？」

この質問が大好きです。日本人はシャイと言われるかもしれませんが、カンボジアの人々はもっとシャイであることに親近感を覚えながら、子どもたちにその質問をしました。すると彼らは恥ずかしがらずにすぐ手を上げて「私の夢はドクターになることです」「先生になることです」「警察官になることです」。キラキラとした眼差しで夢を語る彼らの姿が輝いていました。全教科に使っているであろう一冊のくたびれたノート。木に針金でくりつけられただけのホワイトボード。男の子が当然のように着ているキティちゃんのTシャツ。私には「過酷」と思ってしまう状況でもしっかりと夢を持って生きている姿に感動しました。

しかし、後でこんな話を聞きました。「夢の種類が少なかったことに気づきましたか？」確かに多くの子どもたちが夢を語りましたが、夢は4、5種類しかありませんでした。それは彼らの身の回りにモデルが少ないことを示していたのです。私たちはなぜ夢を持つのでしょうか。それはその夢を生きている人の姿を見聞きして、感動したからではないでしょうか。「私もあんな生き方がしたい!」と子どもたちが思えるチャンスをもっと作っていきたく強く思った瞬間でした。FHの教育支援の尊さを実感しました。次世代を担う子どもたちの可能性が広げられることは、彼らの村の可能性が広がることです。彼らの村が豊かになることが、彼らの国を豊かにします。カンボジアであっても日本であっても、そのために何かしていきたいと強く願わされた旅でした。



パンミリア村の子どもクラブでの交流風景



チャンピア村では貯蓄グループの養豚を視察



チャンピア村で貯蓄グループのミーティングに参加



旅の終わりにアンコールワットへ



ひらのしょういち  
平野翔一  
愛の実践による絆があるから

日本国際飢餓対策機構の親善大使として初めて現場に行きましたが、やはり実際に現地足を運び、目で見て肌で感じて見なければ気付かなかったことがたくさんありました。カンボジアの村人たちの笑顔やキラキラ輝いている子どもたちの姿をしっかりと目に焼き付けながら歌を届けることができ、本当に貴重な体験をさせて頂きました。

研修ツアーを振り返ってみて思ったことは、僕たちがカンボジアの村で演奏させてもらうことは当たり前なことではないということです。僕たちの行動を一言でいうなら「楽器を担いで飛行機に乗り、現地足を運び演奏して歌を届ける」ということでした。僕たちの行動だけを考えればそう難しいことではないように感じます。しかし僕たちが村人に笑顔で歓迎されて演奏することができたのは、これまでカンボジアのFHスタッフ一人ひとりが時間をかけて村人たちに愛を実践し続けて築いてきた絆があったからこそ実現できているのだと思いました。僕たちはこの築いてきた関係の上に立ち演奏させて頂いたわけです。この関係がなければ僕たちが村に行き演奏したいと願っても歓迎されなかったでしょう。

このカンボジア研修ツアーを通して改めて愛を実践していくことの大切さを感じ、これからの自分の人生に大きな気づきを与えてもらった素晴らしいツアーでした。これからも親善大使として最善を尽くしていきたいです。

カンボジアへの旅では多くの人と触れ合い、文化の違いや言語の違い、FHの現地スタッフの愛ある行動を見てくる事が出来ました。現地訪問で個人的にインパクトが大きかったのが村々で定期的に行われるVDC (Village Development Community)、すなわち村の開発委員会の会議でした。村のリーダーとFHのスタッフが集まり、共に今その村に必要な事、又村の改善の為の最優先事項などを話し合う会議でした。その様子を見ながら現地スタッフと少しお話しをしているとこの会議の重要性がいろいろ見えてきました。リーダーを育てて自分たちで村を良くしていく責任を持って貰うこと、村の改善を政府側に頼んでもそれが承諾されて行動に移されるまで時間がかかり進まない事、FHのスタッフ抜きでもミーティングが自発的に持たれるように励ましている事。これはほんの一部に過ぎないですが個人的にとっても印象に残った要素でした。

「VDC会議を通して勤勉で誠実なリーダーが育って行き、国をリードする人がどんどん育っていく事を願っている」1つの小さな村の会議でし



かありませんが、この中からしっかりとした価値観の土台を持ち、勤勉さと誠実さを兼ね備えたリーダーが育って行くとすると、国の根底から改善される素晴らしい会議だと気づかされました。まさに国作り、国の再建そのものだと思われました。村民を主体として愛と忍耐をもって10年単位で動かれているFHのスタッフ一同、あくまで自転車の補助輪のようなその働きに痛く感動しました。これからもこの働きが尊く更に大胆に用いられるよう切に祈っております。

ながさわひろのり  
長沢紘宣  
カンボジアでの4日間を終えて

今回、親善大使としてカンボジアに行き、現地でのFHの働きや村の子どもたち、大人の人たちとの関わりの中で強く感じたことは、「大きな信頼」が土台にあるということでした。もちろんそれ



は簡単に築かれたものではなく、多くの祈りとFHスタッフの地道な愛の実践によって構築されたものであるのは言うまでもありませんが、現地を感じた信頼関係は、豊かな国日本でいま失われつつあるものかもしれないと思いました。

FHスタッフがまず神様に心から信頼しながら働いていて、そしてそのFHスタッフたちを信頼している子どもたちや、村の大人たちの姿があること。そして村の人たちの中に信頼関係が生まれ、貯蓄グループという形で信頼が実を結んでいること。そしてFHスタッフたちの最終的な願いは、村の人々がその働きに信頼すること以上に自立していくこと。

自分だけが良ければというものではない、本当に大切なものを見ることができた気がします。今回、少ない日数の中で、僕が感じたこと以上に苦労や問題点はあるのかもしれませんが、それ以上にここには多くの愛と喜びがある。そう感じることができたカンボジアでの4日間でした。

お知らせ  
コンサートやCDの情報はこちらから  
ナイトdeライト公式ホームページ  
<http://night-de-light.com>  
2016年10月30日世界食料デー広島大会にナイトdeライトの出演が決定しました。



2009年から当機構のサポーターとしてご協力くださっている奥田英男さん(オクダ商事社長:不動産建設業)は、今年3月から東京都福生市にある本社ビル前にハンガーゼロ自販機を設置してくださっています。設置当初はドリンク1本につき10円寄付をして



いただいていたのですが、「学生さんがよく買ってくださいるので、学生さんの思いをできるだけたくさんお届けしたくて」と寄付額を30円に変更してくださいました。熱い思いをもって支援活動に取り組んでくださっている奥田社長にお話を伺いました。



オクダ商事さん「自販機の寄付額を増額しました！」

応援してくださる皆さんの思いをもっと届けたい

Q JIFHの活動を知って頂いたきっかけは?

クリスチャン系の新聞などで飢餓対策機構の記事を読んだのがきっかけです。

それまで赤十字社や国連関係の団体の支援をしていましたが、JIFHの資料を請求してみました。そしてニュースレターを読んでその活動が素晴らしいと思いました。食べられない人には食べ物を支援し、精神的なサポートもして

いる。

Q JIFHのハンガーゼロサポーターになってくださったのは?

私はクリスチャンとして、今苦しんでいるところをサポートする、水がない人には、まず水を与えるという思いを神様から与えられています。アジアやアフリカなど遠くに住んで苦しんでいる人を支援したい、けれど直接は渡せない。でもそこで人々に心から仕えて支えてくれる人がいる、その人を通して捧げることができるのは感謝なことだと思います。

社員全員が賛同

Qハンガーゼロ自動販売機や地球儀型募金箱も置くなど様々な形で支援をしてくださっていますね。

個人でサポートを始めて、私が主催している「よろこび研究会」の仲間も賛同してくれて募金しています。自販機は飢餓対策ニュースで知りました。これは一般の方へのPRに最適だと思い、社員に自販機設置のことを話したら全員が賛成してくれました。



自販機を設置している場所がバス停なので、学生さんがたくさん利用してくれています。自販機にアフリカのサポートのことが書かれているからいいですね。ハンガーゼロ自販機で買った人が祝福されると思います。私たちは設置場所を提供しただけです。会社のお客様や協力業者さんにも支援活動が広がって欲しい、そして祝福されることを願っています。

ご協力感谢您いたします

ハンガーゼロ自販機全国に97台  
1年間の募金額は2,700,838円でした  
2015年5月~2016年4月集計  
お問い合わせは大阪事務所・碓井まで



10月16日は世界食料デー。今年で25回目を迎える「国際児童画展」は、世界食料デー芦屋大会実行委員会と当機構が共催で開催しています。

開発途上国で主として教育支援「チャイルド

サポーター(世界里親会)」の支援を受けている地域の子どもたちに参加を呼びかけて、同じテーマで絵を描いてもらっています。現地での厳しい選抜をくり抜けてきた力作約20点つつが、世界のさまざまな地域から秋の作品展を目指して日本まで届けられています。

子どもたちが描くのは、一人ひとりの目に映ったものや、感じ取っているもの、時には願望であったりします。表現された絵の世界を通じて、その時々その国の子どもが置かれた状況や毎日の生活を想像することができます。

今年、世界食料デー芦屋大会と名古屋大会(子ども絵画コンクールと共催)、南大阪大会で展示の予定です。ぜひお近くの会場へお越しください。

これらの児童画は過去の作品も含め貸し出しを行っています。絵画を通して世界の飢餓・貧困の現実への理解を深めると同時に、絵の中にあふれ出る家族への愛、地域社会への思い、子どもたちの夢や希望が見る人に深い感動を与えることでしょう。

国際児童画展を企画しませんか? こちらから [https://www.jifh.org/joinus/plan/children\\_painting.html](https://www.jifh.org/joinus/plan/children_painting.html)

国際大賞金

2016年のテーマは「学校生活」

- 国際大賞金 Joel Kawanguzi (ジョエル・カワングチくん)
- 国際大賞銀 Steven Wasimoirye Mark (ワシモイリエ・スティープン・マークくん)
- 国際賞 Mwanja Edmon Kaliza (ムワンザ・エドモン・カリザくん)
- 国際賞 Antony Isiko (アンソニー・イシコくん)



(左から)国際賞アンソニーくん、参加賞のプレングダさん、金賞のジョエルくん、参加賞のシャミラさん



国際大賞銀



国際賞



参加賞



銀賞のスティープンくん

●FHウガンダからのメッセージ

私たちは長年この児童画展に参加していますが、子どもたちの絵の才能を伸ばすとても良いチャンスになっています。また日本から入賞した子どもたちに届けられる賞状が、どれほど彼らの励みになっているか計り知れません。